静　岡　県　の　地　震　活　動

第 37 巻第 10 号
2026 年 11 月 10 日
静 岡 地 方 気 象 台

2026 年 10 月の地震活動概況

静岡県で震度１以上を観測した地震は６回あり、このうち千葉県北東部の地震などにより震度２を観測しました。

静岡県内の最大震度別地震回数（2026 年 10 月１日～31 日）

震度	1	2	3	4	５弱	５強	６弱	６強	7	合計
地震回数	4	2	0	0	0	0	0	0	0	6

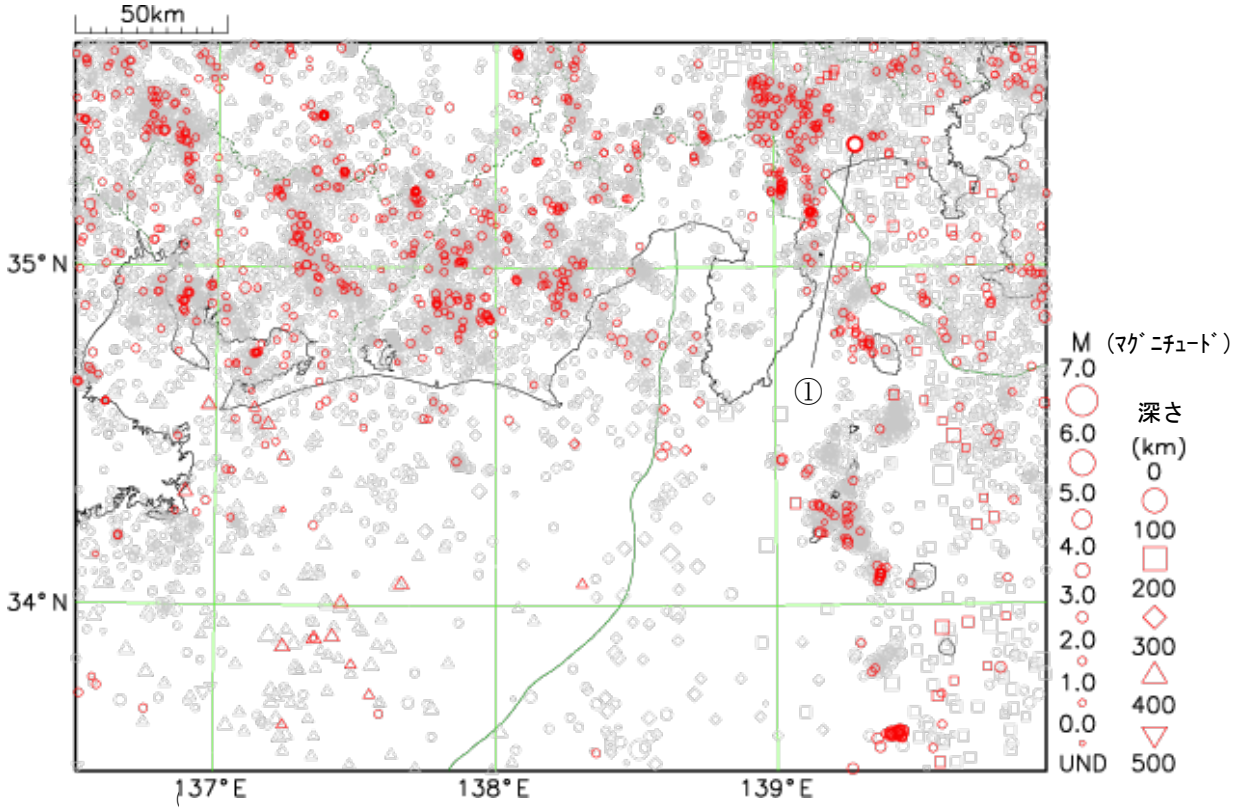


図１　静岡県とその周辺の震央分布図（2025 年 11 月１日～2026 年 10 月 31 日、深さ０～500 km、Mすべて）2026 年 10 月の地震を赤色で表示

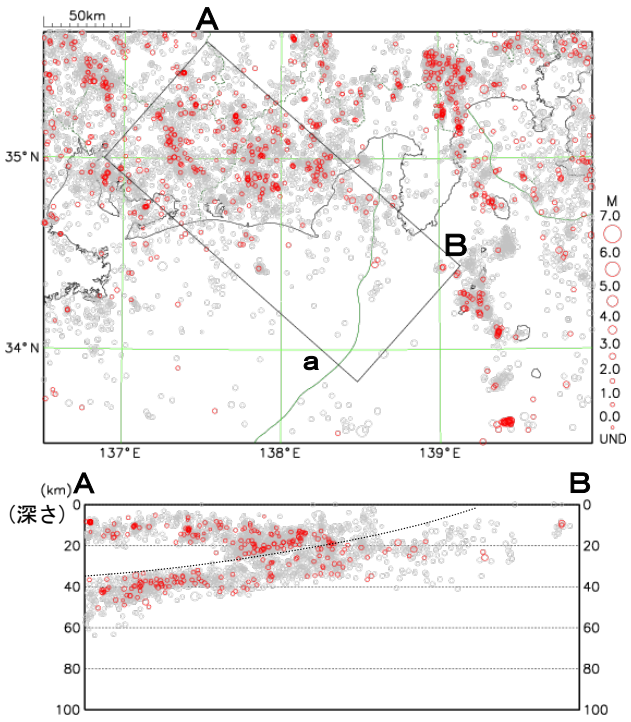


図２　震央分布図(2025 年 11 月１日～2026 年 10 月 31 日、深さ０～100km、Ｍすべて）及び断面図（領域ａ内Ａ－Ｂ断面）
2026 年 10 月の地震を赤色で表示
点線は陸側プレートとフィリピン海プレートとの境界のおよその位置

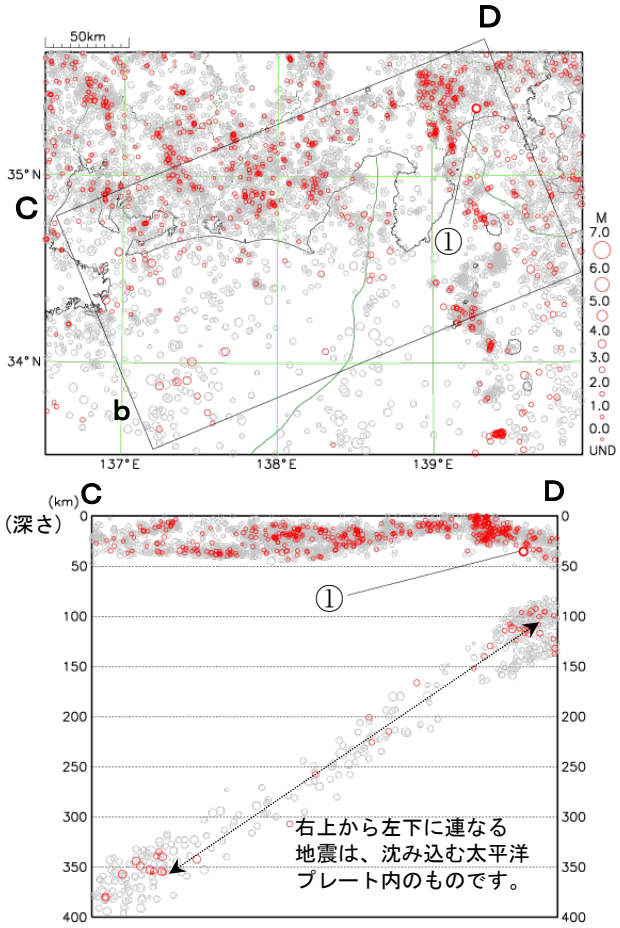


図３　震央分布図（2025 年 11 月１日～2026 年 10 月 31 日、深さ０～400km、Ｍすべて）及び断面図（領域ｂ内Ｃ－Ｄ断面）
2026 年 10 月の地震を赤色で表示

１．　静岡県及びその周辺

① 神奈川県東部の地震（図１、図３の①、表１のｂ）

６日 19 時 53 分に神奈川県東部で発生した地震（M3.5、深さ 35km）により、神奈川県、山梨県、東京都及び静岡県で震度２から１を観測しました（図４）。県内では、東部及び伊豆で震度２から１を観測しました。

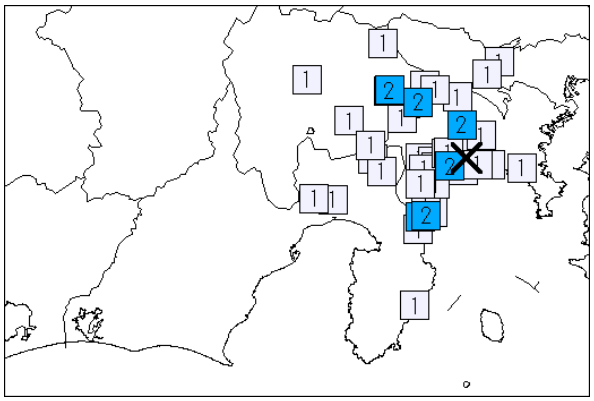


図４　観測点震度分布図
（×は震央を示す）

２．その他の地域（図１の範囲外）

②千葉県北東部の地震（表１のａ）

１日 21 時 27 分に千葉県北東部で発生した地震（M5.2、深さ 51km）により、千葉県と茨城県で震度３を観測したほか、関東甲信越地方、福島県、宮城県及び静岡県で震度２から１を観測しました（図５）。県内では、東部及び伊豆で震度１を観測しました（図６）。

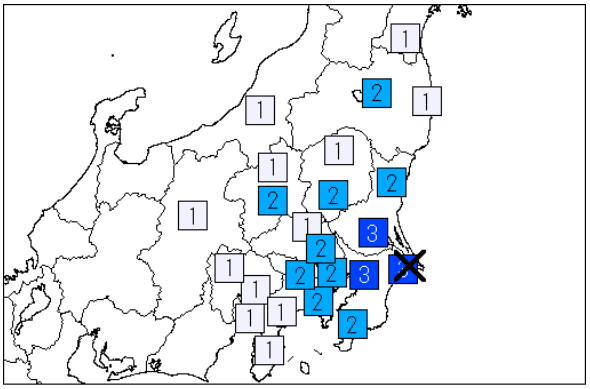


図５ 各地域の震度分布図
（×は震央を示す）

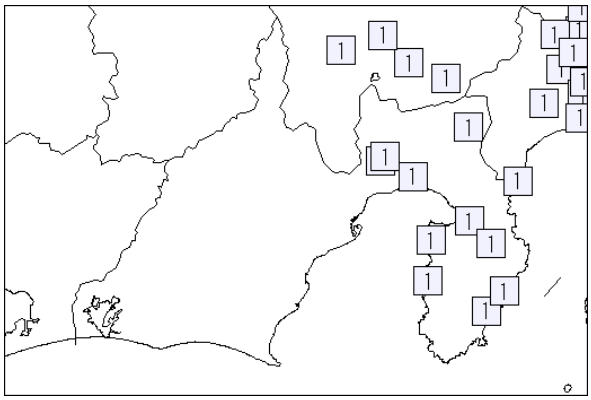


図６ 県内及びその周辺の震度分布図

③千葉県東方沖の地震（表１のｃ）

８日 04 時 13 分に千葉県東方沖で発生した地震（M4.7、深さ 51km）により、千葉県で震度４を観測したほか、関東地方、福島県及び静岡県で震度３から１を観測しました（図７）。県内では、東伊豆町で震度１を観測しました（図８）。

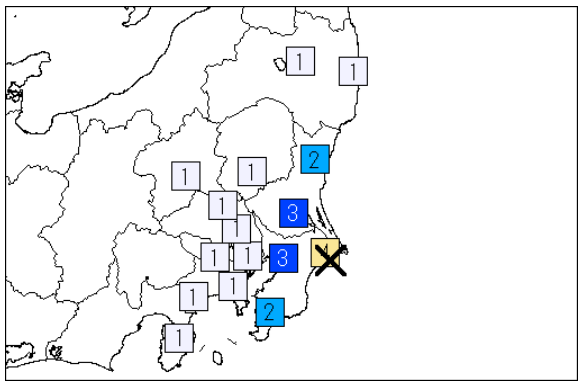


図７　各地域の震度分布図
（×は震央を示す）

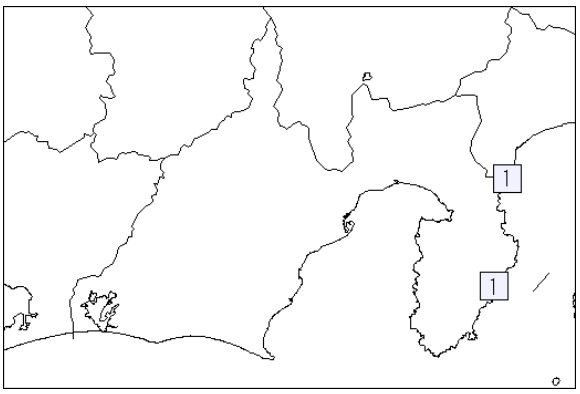


図８　県内及びその周辺の震度分布図

④千葉県北西部の地震（表１のｄ）

21 日 10 時 04 分に千葉県北西部で発生した地震（M4.0、深さ 68km）により、関東地方、山梨県及び静岡県で震度２から１を観測しました（図９）。県内では、熱海市、東伊豆町及び伊豆市で震度１を観測しました（図 10）。

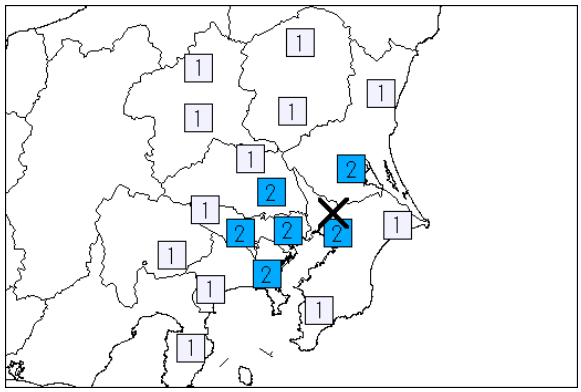


図９　各地域の震度分布図
（×は震央を示す）

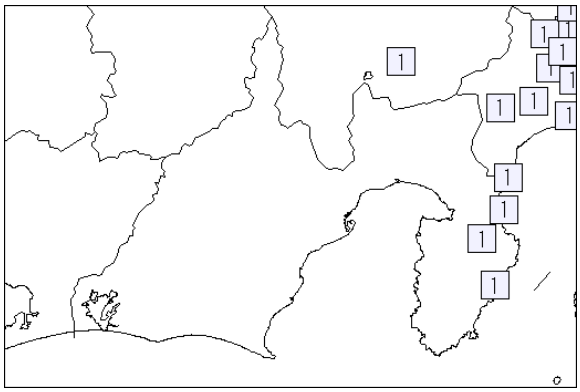


図 10　県内及びその周辺の震度分布図

⑤小笠原諸島西方沖の地震（表１のｅ）

25 日 11 時 09 分に小笠原諸島西方沖で発生した地震（M6.8、深さ 507km）により、小笠原諸島で震度３を観測したほか、伊豆諸島、関東甲信越地方、東北地方及び静岡県で震度２から１を観測しました（図 11）。県内では、松崎町及び伊豆市で震度１を観測しました（図 12）。

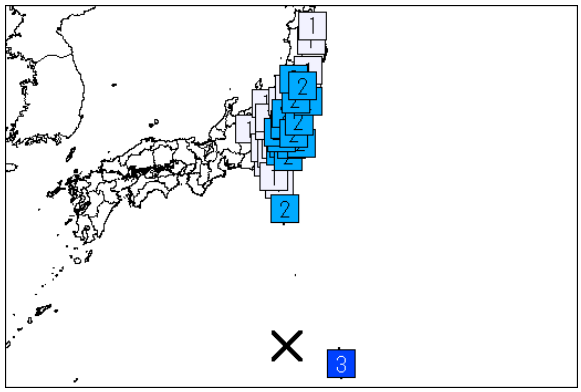


図 11　各地域の震度分布図
（×は震央を示す）

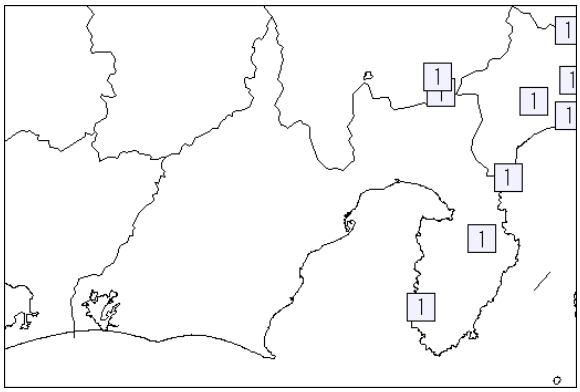


図 12　県内及びその周辺の震度分布図

⑥千葉県北東部の地震（表１のｆ）

29 日 00 時 07 分に千葉県北東部で発生した地震（M5.5、深さ 52km）により、千葉県で震度５弱を観測したほか、関東甲信越地方、伊豆諸島、東北地方及び静岡県で震度４から１を観測しました（図 13）。県内では、東部、伊豆及び静岡市で震度２から１を観測しました（図 14）。

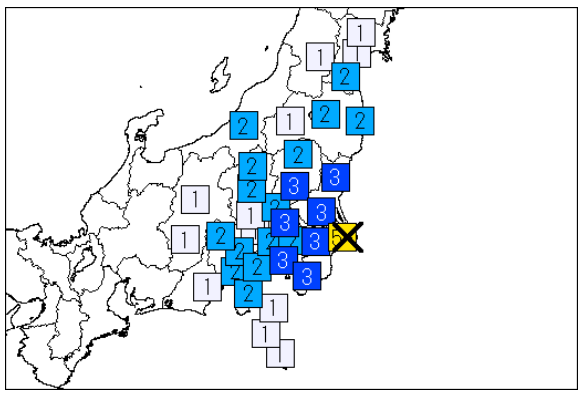


図 13　各地域の震度分布図
（×は震央を示す）

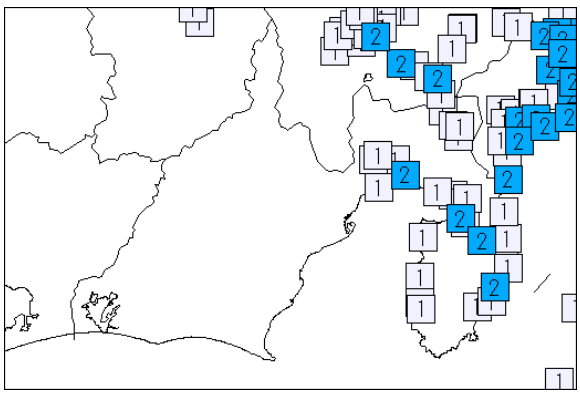


図 14　県内及びその周辺の震度分布図

３．富士山の地震活動

富士山では、深部低周波地震を 15 回観測しました。また、高周波地震を７回観測しました（９月の深部低周波地震は６回、高周波地震は 18 回)。

「深部低周波地震」「高周波地震」は、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」の「火山性地震・火山性微動に関する用語：https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/shindou.html」をご覧ください。

この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※本資料は、静岡地方気象台ホームページの「静岡県の地震概況」に掲載してあります。
https://www.data.jma.go.jp/shizuoka/shosai/gaikyo_eq/gaikyo_eq.html

問い合わせ先：静岡地方気象台　地震・火山担当　　電話 054-286-3521

表１［県内震度観測点で震度１以上となった地震とその震度］

（記号は以下の各地の震度表中の記号に対応、＊印は自治体、国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点、－は運用休止中を示す）

記号	地震発生時刻	震央地名	北緯　東経	深さ	M	最大震度（県外を含む）
a	10 月 1 日 21 時 27 分	千葉県北東部	35° 44.5′　140° 41.7′	51km	5.2	３：＊千葉県旭市高生ほか
b	10 月 6 日 19 時 53 分	神奈川県東部	35° 21.6′　139° 17.6′	35km	3.5	２：＊神奈川県中井町比奈窪ほか
c	10 月 8 日 04 時 13 分	千葉県東方沖	35° 38.5′　140° 40.7′	51km	4.7	４：＊千葉県旭市南堀之内
d	10 月 21 日 10 時 04 分	千葉県北西部	35° 48.0′　140° 05.9′	68km	4.0	２：＊千葉県白井市復ほか
e	10 月 25 日 11 時 09 分	小笠原諸島西方沖	27° 46.7′　139° 55.7′	507km	6.8	３：東京都小笠原村父島三日月山ほか
f	10 月 29 日 00 時 07 分	千葉県北東部	35° 43.3′　140° 42.9′	52km	5.5	５弱：＊千葉県横芝光町宮川ほか

地域	震度観測点	各地の震度					
		a	b	c	d	e	f
静岡県伊豆	下田市加増野						
	＊下田市中						
	＊下田市敷根						
	＊東伊豆町稲取						1
	＊東伊豆町奈良本	1	1	1	1		2
	＊河津町田中	1					1
	南伊豆町石廊崎						
	＊南伊豆町入間						
	＊南伊豆町下賀茂						
	＊松崎町江奈						
	＊松崎町宮内					1	1
	＊西伊豆町仁科						1
	＊西伊豆町宇久須	1					1
	＊西伊豆町一色						
	熱海市網代				1		1
	＊熱海市泉		2				
	＊熱海市中央町		1				
	伊東市大原						1
	＊伊東市八幡野						1
	＊函南町平井						1
	＊伊豆の国市長岡	1					2
	＊伊豆の国市田京						1
	＊伊豆市小立野						
	＊伊豆市土肥						
	＊伊豆市湯ケ島						
	＊伊豆市八幡						
	伊豆市中伊豆グラウンド	1			1	1	2
静岡県東部	＊沼津市高島本町						
	＊沼津市御幸町						
	＊沼津市西間門						1
	＊沼津市戸田	1					1
	＊沼津市原						
	三島市東本町						
	＊三島市大社町						
	御殿場市萩原	1					1
	＊御殿場市茱萸沢		1				1
	＊御殿場市竈						1
	＊裾野市石脇						
	＊裾野市佐野						
	＊静岡清水町堂庭						1
	＊長泉町中土狩						
	＊小山町藤曲						
	＊小山町須走		1				1
	富士宮市弓沢町	1					1
	＊富士宮市猪之頭						
	＊富士宮市野中	1	1				1
	＊富士宮市長貫						
	＊富士市本市場						
	＊富士市永田町						
	＊富士市岩渕						
	＊富士市吉永	1					2
	＊富士市大淵		1				1
	富士市富士総合運動公園						
静岡県中部	静岡駿河区曲金						
	＊静岡駿河区用宗						
	＊静岡葵区追手町県庁						

地域	震度観測点	各地の震度					
		a	b	c	d	e	f
静岡県中部	＊静岡葵区追手町市役所						
	＊静岡葵区駒形通						
	＊静岡葵区梅ヶ島						
	静岡清水区千歳町						
	＊静岡清水区蒲原新栄						1
	＊静岡清水区由比北田						
	＊静岡清水区谷津						
	＊島田市金谷代官町						
	島田市川根町家山						
	島田市元島田						
	＊島田市川根町笹間上						
	＊焼津市石津						
	＊焼津市宗高						
	＊藤枝市瀬戸新屋						
	＊藤枝市岡出山						
	＊藤枝市岡部町岡部						
	牧之原市鬼女新田						
	＊牧之原市静波						
	＊吉田町住吉						
	＊川根本町上長尾						
	＊川根本町東藤川						
静岡県西部	＊磐田市見付						
	＊磐田市国府台						
	＊磐田市福田						
	＊磐田市岡						
	＊磐田市下野部						
	袋井市新屋						
	＊袋井市浅名						
	＊掛川市長谷						
	＊掛川市西大渕						
	＊掛川市三俣						
	掛川市篠場	－	－	－	－	－	－
	御前崎市御前崎						
	＊御前崎市池新田						
	＊静岡菊川市赤土						
	＊静岡菊川市堀之内						
	＊静岡森町森						
	＊浜松天竜区春野町						
	＊浜松天竜区二俣町鹿島						
	＊浜松天竜区龍山町						
	＊浜松天竜区佐久間町						
	＊浜松天竜区水窪町						
	浜松中央区高丘東						
	＊浜松中央区元城町						
	＊浜松中央区三組町						
	＊浜松浜名区西美薗						
	＊浜松中央区流通元町						
	＊浜松中央区舞阪町						
	＊浜松中央区雄踏						
	＊浜松中央区江之島町						
	浜松浜名区滝沢町						
	＊浜松浜名区細江町						
	浜松浜名区三ヶ日町						
	＊湖西市新居町浜名						
	＊湖西市吉美						

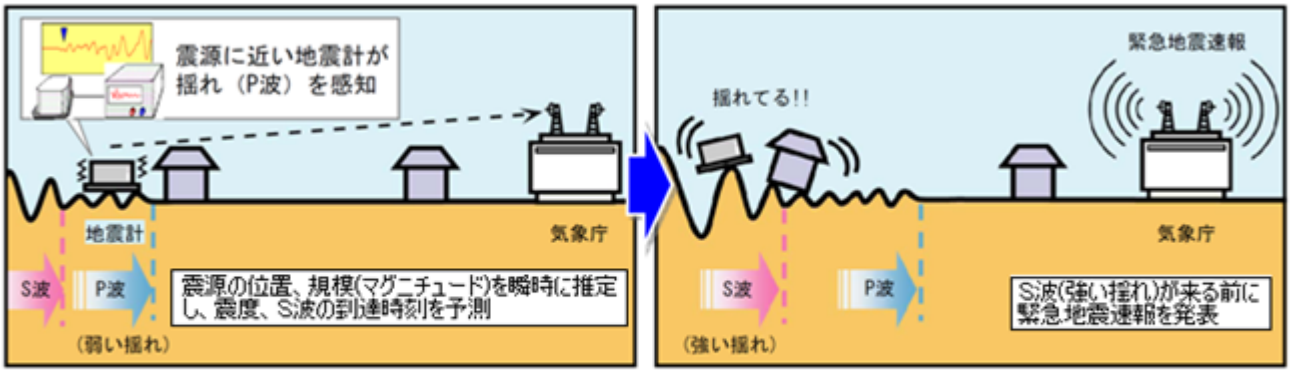
【防災一口メモ】

緊急地震速報のしくみ

地震が発生すると、揺れが波（地震波）となって地中を伝わっていきます。地震波は主に2種類あり、速いスピード（秒速約7km）で伝わる「**P波**」とそれよりもスピードは遅い（秒速約4km）が揺れは強い「**S波**」があります。気象庁では、震源付近でP波を検知した地震計から送られてきたデータを解析し、震源や地震の規模、予測される揺れの強さを計算します。

計算した地震の規模や予測震度等が発表基準に達した場合には、それぞれの基準に応じて緊急地震速報の警報と予報を発表します。これらの処理は全て自動で瞬時に行われるので、**S波が伝わってくる前にお知らせすることが可能となります。**

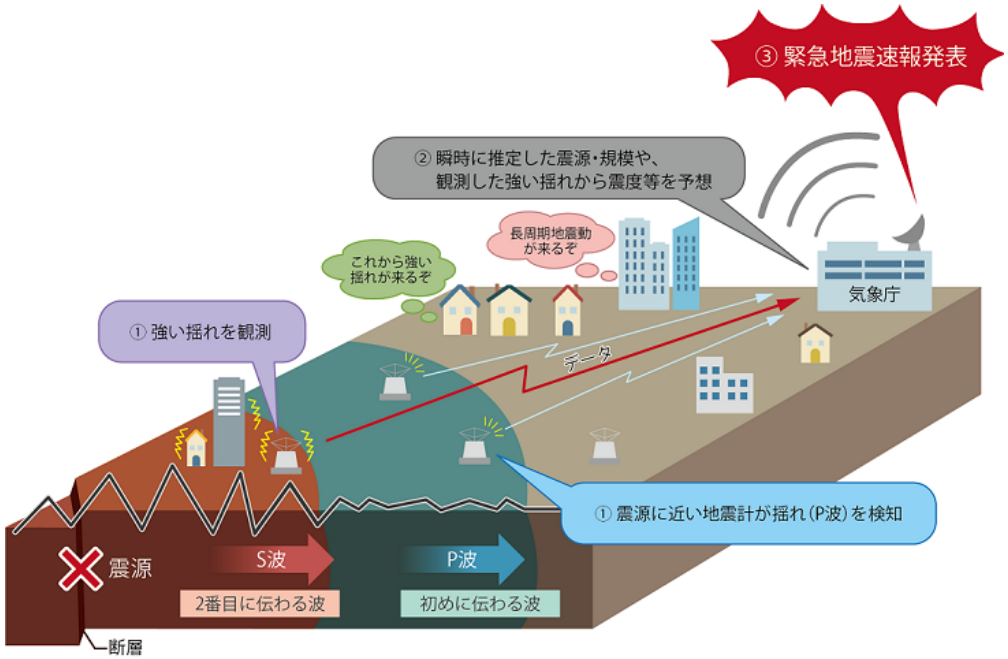
ただし、解析や伝達に一定の時間（数秒程度）がかかるため、内陸の浅い場所で地震が発生した場合などにおいて、**震源に近い場所への緊急地震速報の提供が強い揺れの到達に原理的に間に合わない**ことに注意が必要です。



速度　P波：秒速約7km
　　S波：秒速約4km

◇震源を推定して震度・長周期地震動階級を予測

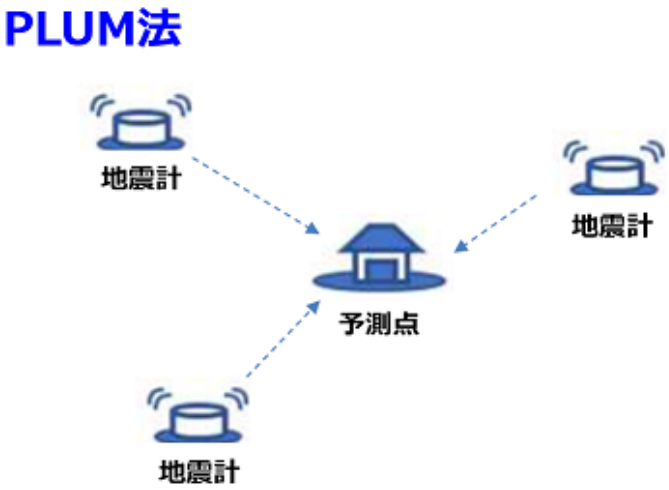
地震発生後、震源付近の少ない観測点のデータをもとにできる限り早く震源やマグニチュード（M）を推定します。その震源とマグニチュード（M）をもとに、各地点の揺れの強さ（**震度**と**長周期地震動階級**）と**到達時刻**を予測します。



◇揺れから揺れを予測（PLUM 法）

PLUM 法（※）は、巨大地震が発生した際でも精度良く震度が求められる予測手法であり、**震源や規模の推定は行わず、地震計で観測された揺れの強さから震度を予測します。**

「予測地点の付近の地震計で強い揺れが観測されたら、その予測地点でも同じように強く揺れる」という考えに従った予測手法であり、予測してから揺れがくるまでの猶予時間は短くなりますが、**広い震源域を持つ巨大地震であっても精度良く震度を予測することができます。**

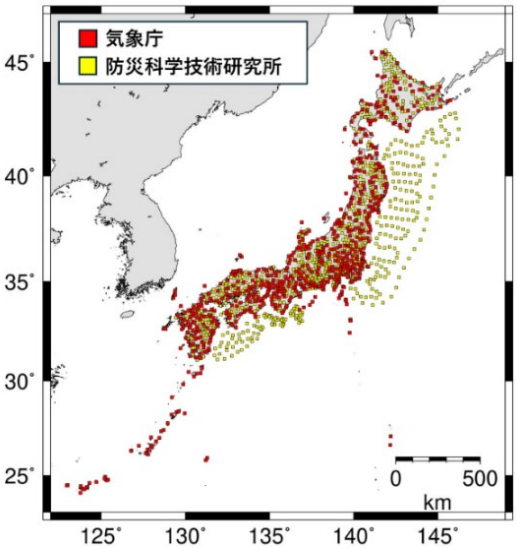


※　Propagation of Local Undamped Motion　の略。プラム法。

◇緊急地震速報の提供を可能にする様々な技術

・地震の発生を素早くとらえる観測体制

緊急地震速報には、全国約 690 箇所の気象庁の地震計・震度計に加え、国立研究開発法人　防災科学技術研究所の地震観測網（全国約　1,000　箇所）を利用しています。多くの観測点のデータを活用することで、地震が起きたことを素早くとらえることができます。



・少ない観測データから揺れの強さを速やかに予測する技術

緊急地震速報では、少ない観測点のデータから震源やマグニチュードを迅速かつ精度良く推定する必要があります。これは、コンピュータの性能の向上により瞬時に計算が出来るようになったことの他、1観測点のP波の観測データから震源やマグニチュードを推定する手法などを活用することで可能となりました。

・検知した地震波や発表した緊急地震速報を素早く伝える情報通信技術

地震波の伝わる速度は、数　km/秒　程度です。一方で、現在、情報を伝えるために使われている有線・無線の電気信号は原理的には光の速度（約　30　万　km/秒）で伝わるため、非常に短い時間で遠距離まで情報を伝えることができます。この地震波と電気信号が伝わる速度の差を利用すれば、地震が発生した場所の近くの地震計で地震波を検知し、それを電気信号で気象庁に伝え、地震波が伝わってくる前にこれから揺れることを再び電気信号を使って伝えることができます。

◇緊急地震速報の仕組みや、身を守るための行動について紹介した動画

政府インターネットテレビ：緊急地震速報～その時どう動く？「数秒間の心がまえ」

https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg24210.html